

# カラーユニバーサルデザインにもとづくプリント柄の印象評価

○小林 未佳（文化学園大学），山口 真璃（文化女子大学），鈴木 正文（文化学園大学）

## 1. 緒言

我々の中には「色覚障がい」をかかえる人がいる。そのような人たちの色の見え方は様々で、いくつかのタイプに分類されている。どのようなタイプがあり、どのように色が見えているかについては、文献やインターネットなどで情報を得ることが出来るが、まだ一般的には多く知られていない。

人には多様な色覚があることに配慮して、なるべく全ての人に情報がきちんと伝わるように利用者側の視点に立ってつくられたデザインを、カラーユニバーサルデザインといい、最近注目されるようになってきた。この考え方はすでに多くの人が利用する公共施設などに取り入れられている。しかし、ファッションに取り入れている事例はほとんどない。

そこで、本研究ではカラーユニバーサルデザインをファッションに取り入れることを目的とし、色覚障がいをかかえる人でも色を見分けることの出来る色の配色を用いてデザイン発想をし、それらのデザインがどのような印象を与えるかを調べることにした。

## 2. 方法

カラーユニバーサルデザインをもとに、発想したプリント柄に色を配色し、官能検査を用いてプリント柄の印象を調べた。プリント柄は3種類でバッグに用いることを目的としてデザインした。色はとなり合う色の組み合わせに注意して配色した。色覚障がいをかかえる人にも見分けやすい色の組み合わせは、出来るだけ明度差 $\Delta L^*$ 値（JIS Z 8730 物体表示方法—物体色の色差）を大きくとり、赤と緑の識別がしにくいことから、隣り合わせにならないようにすることである。カラーユニバーサルデザインの配

色資料より、隣り合わせになる色同士の明度差 $\Delta L^*$ 値が30以上あれば、色覚障がいをかかえる人でも色を見分ける事が出来る事から、色測定を行いながら、配色を決めた。印象評価はSD法により官能検査を行い、評価用語対には柄の印象と色の印象それぞれにつながる用語を文献より抽出して用いた。また参考として、シミュレーションソフトを使用し、色覚障がいをかかえている人が見えているであろう色に変換したデザインについても印象を調べた。

## 3. 結果および考察

図より、デザインA（ポップ柄）は、「大胆な」、「個性的な」、「印象に残りやすい」の値が大きかった。これは、デザイン特性に依ったと言える。

「印象に残りやすい」、「柄が分かりやすい」の値が大きかった。これは、デザインの特性の影響もあるが、配色において、隣り合う色の明度差を大きくとったことから、デザインの輪郭が強調されたことにより、より柄がはっきりと見えたためと考えられる。

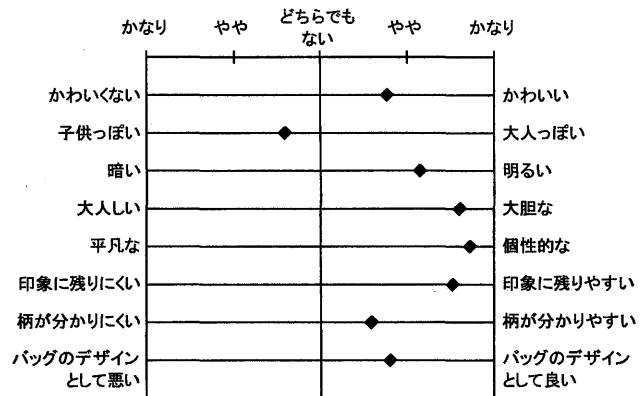


図. デザインA（ポップ柄）の印象評価